

付けられ空中に轉廻し續けなければならなかつた。今ここには彼が車輪に縛られんとしてゐる處を描きてゐる。蹲踞せる女性はジュノらしい。この繪の右手にはハミリス・アイリス・ヘラ・ネフエレが描かれ右手の壁にはアリアドネが眠れる處をバツカスに發見されてゐる畫がある。

(續く)

摘 錄

○小藤文次郎博士述 東亞に於けるロツキー山脈
(Gerlands Beitrage zur Geophysik. Bd 27, p.241—243, 1930 所載)

本篇は予の曩の論文(地球第十三卷三八九—三九一頁参照)の續稿である。ララミード變革で生じた内陸にあるコトディレラのロツキーと太平洋系の海に寄つたアンデス即ちカステロドの二重山脈とは A・C・スペンサー、L・W・L・セーヤー及び F・B・テラーに依り北米合衆國の太平洋岸地方からカナダ及びアラスカを過ぎベリリング海を横ぎつて東シベリアの海岸まで追究された。予は頃日太平洋の北西部でアジアのロツキー山脈を追究した、この山脈は内陸高原とアメリカ側に類比すべき低い沿海地帯との間の分水界である。然かもアメリカとアジアとのもの、間には重要な相違がある、是はロ

ツキー山脈が殆んど眞直ぐに南走し且つアラスカに於て鈍く曲がつてゐるのに我々の側のロツキー山脈は規則正しい短かい弧の連合から成つてゐることである。

地貌に著しく違ひのあるのは恐らく兩地域に於ける太平洋底の非對稱に原因するものであらう、アメリカ海岸は淺く、之に對する北西部は所謂前面深淵で特徴づけられてゐる、なほ其の後背地は北アメリカと古い巨大な歐亞大陸との不同の大陸であり、此の外自然力による他の多くの要因も存在する我々の側に特有な前面深淵は四つある。其の内外側の二つはタスカローラと小笠原(即ちマリアナ)であり内側の二つは琉球とミンダナオ(即ちフィリッピン)であつて、最深のものであつて平均の深さは九千米に達しシマ帯中に在る。此等の前面深淵はアジア縁邊のシアル殻に向つて衝下運動を押しした。之に反する反應的移動が大洋の海溝に向つて地殼の表層に起り前面の地向斜の方に衝き進み、若い海成層の衝上及び斷落を生じた。然るに後方の山地は内方に傾き、其の結果として火山裂口となる溝壑を開口させた。此の赫々たる一例はポルトガル人によつて美はしの島と呼ばれた臺灣島の地質構造である。外方に向ふ地殼の押推は弧狀山稜列の生成を齎した、就中前面深淵に相應する四個の山脈がある。即ち(I)普通にロツキー山脈と名付けられた内陸分水界、(II)朝鮮、樺太等の如き海岸にある弧、(III)日本の様な花彩島及び(IV)大洋にある小笠原山稜である。凡て此等は東方にあるアジアの海

溝と其の陸に向つた横の衝下とに其の成因を歸すべきものである。

火山を伴つて居て複雑な太平洋岸の二重山脈はわざと他の機會に譲り、茲にアジアのロッキーマウンテン山脈に就いて見るに、この山脈は北方から南北兩スタノヴォイ山脈（これにはオホツク内曲を伴ふ）、次に大興安嶺山脈（アムールの内曲を伴ふ）を通じて追跡し得る。東部内蒙古の高地即ち熱河を通じて眞直ぐに南方に進まずに此の山脈は西方崑崙の北麓に向つて曲つた進路を採る。大興安嶺山脈は玄武岩より成る多倫諾爾の北方に於て平夷するが再び西方陰山、次に南山（祁連山即ちリヒトホーフエン山脈）に現はれる、南山に於ては山脈は低く且つ不連続的になる。こゝに中央アジアに於て著しい山形的斷絶が伏在する。砂に埋められた塊狀地がセリンデイヤ（綽印皮即ち支那印度）と呼ばれたものが此の附近に位置してゐると稱される。之は西は羅布泊湖と東は歴史的の町なる敦煌との間にあつて甘肅省肅州の長城附近の玉門に近い處である。此の地方は紀元前の太古の文明中心であつて支那の政治的進展（紀元前百十年）と印度の佛教的文化の會合點であつた。所謂セリンデイヤは山脈分派點たる處である。一支は西北西に走り天山の古生層山脈に於て最高を極め、他の一支は元來の走向を保つて阿爾金塔格（崑崙の北方の前面山脈）を通じ、帕米爾及びヒンツウタンに向つて走つてゐる。斯して南北兩山脈は古典的な東トルキスタンの塔里木沙漠盆地を圍む。第三の

弧は興安嶺山脈を出て後、奉天の西方から新に渤海の西縁にある熱河の東稜で長城の形（南口）をなして出發する、而して北平の北西に於て一の内曲を作る。第四の弧は北平平原の西なる太行山であつて黄河の上流で秦嶺（崑崙の北方に向つて内曲する。三角洲的の中華の平原は黄河及び揚子江の姉妹川の眷族によつて殖民された、黄河は遼たる昔から土着され、黄土の黄色は國家的標準色となつた。而して揚子江は第九世紀に土着された。開封附近の黄土を荷つた流れの歴史的峽谷に近い邊は潤潤した天井川をなす。黄河が二つに分れる點であつて、支那の安危が全くかゝはる様な煩惱を藏して居る。

假定されたロッキーマウンテン山脈は尋いで確然たらざる且つ頽廢した崑崙（即ち秦嶺及び淮丘陵）を通じて南方に走り、遂に揚子江の湖水地方の合流窪地に到るまで山稜を横切る、内部の大陸的分水界は次に超崑崙（南支那）に於て南方に向ひ著しい黎平の結節まで延びてゐる。こゝからアジアのロッキーマウンテンは急に地質上若い佛領東京に向つて轉じ、マレーシアの地體構造中に融合してゐる。南支那の前述の山稜は共に内部のカルスト高原と南支那の南東にある沿海帶とを劃する一線である。臺灣島は洪積世中に南支の沿海帶から分離したものである。高い内陸地方は雲南府から揚子江に灌水されるのに貴陽の南方なる苗地方の水は廣東に向つて流出する。中央アジアには構造的に南方に向いた尖端が二つある。一はバイカル湖の南方に、他の一つは廣東の西方にあつて、東翼の山は震旦、五、

○(北)方向(北東)に走り、西翼は天山方向(西北西)に走つてゐる。著者は一つの重要にして意味深い子午構造線を中央アジアのセリンディア附近で認めた、これはエニセイ河口から起つてエニセイスクの地蝨及び地溝に向つてゐる。此のアジヤを横斷する地構線は内外兩蒙古と天山南北兩路との境界に南下し來り、南山に近い羅布泊と敦煌との間の所謂セリンディアに觸れる。此の線は青海の鹽盆地及び西藏の東境を通じビルマ及びマレーシア弧の方に延びてゐることが暗示される。(N)

新著 紹介

○生活狀態調査 (其三) 江陵郡 朝鮮總督府調査資料

第三十二輯 菊版四一〇頁 地圖三葉
寫眞版 一四二頁 一月 非賣品

本書は善生永助氏の調査報告で藝に公にされた濟州島及び水原郡生活、狀態調査の續篇である。江陵郡は日本海沿岸の一名郡で古來儒林を以て顯はれ京城からは漢江流域の山地と太白山脈で隔たつてゐるので一小平地を成してゐる。然かも其の地勢たるや太白山脈の急斜した東側に位して沿岸には平地も少くなく産業も樺漁が榮え、特産としては串柿があり江陵は小京城と俗稱されてゐる。この嶺東の小天地は生活狀態の調査地として誠に興味ある所である。本書は章を分つ六地誌、經濟事情、部落の現狀、生活様式、文化・思想、家計狀態是れである。經濟狀態では各種の統計を擧げて研究資料

を提示してゐるがまゝ單位などに誤りが見えるのは遺憾である。部落の章下では村落に同族部落が多くて人家の密集したものが多く、集團は他地方に比して概して大であると書いてある。家計の章下で農家經濟調査は江陵農業學校長原口良策氏の調査結果を掲げてあるが之によると農家經濟には一般に餘裕も彈力もなく殊に中産階級の疲弊が眼立つてゐる。要するに本書は朝鮮生活狀態の研究資料として大切なものである。須く地理學者はかゝる資料を基として江陵郡の様な種々な地形や地理的位置を抱合してゐる地域内の分割的環境を明瞭に現はすべきであると思ふ、紹介者はこの調査書の内之を求めようとするのではなくてかゝるエラボレートな官廳の仕事を充分採用して地理的考察を行ふのが地理學だと申すのである。(S)

○京郊民家譜

大阪毎日新聞京都支局編
便利堂發行 定價 八圓

大毎の京都版に昨年六月末から、「あの家この家」と題して京の町家の寫眞と解説が出た、其數凡百四十、流石は京は古い都であるから、至る所に古典的な奥ゆかしい民屋が散在する。時世の勢で切角我等の先人が工夫し修飾し居住したこれらの古雅な民居も段々と其形體をかへて行つて、いつのまにか殺風景な鐵筋コンクリートもしくは洋裝まがへの市塵が増加してゆくけれども、それでも京はまだ到る所に天明の大火にもやけず、安政の大火にも焼けないのでこのつた古建築がある。